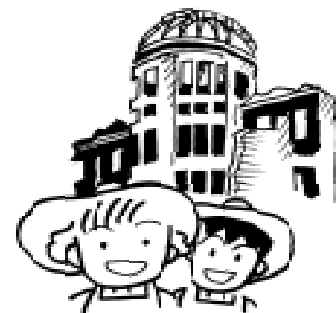


被爆66年の夏 ふたたび被爆者をつくらない決意新たに

核兵器全面禁止アピール署名をひろげましょう！

原爆投下から66年目の夏、

66年前、アメリカ力の投下した二つの原子爆弾によって広島と長崎は一瞬にして廃墟と化し、20万余の人々が命を奪われました。その後遺症は、いまなお被爆者の心と身体をさいなんでいます。被爆者はその苦しみ乗り越え、核兵器の使用は人類に対する犯罪であると告発し、核兵器廃絶を訴え続けてきました。その声はいまや世界のゆるぎない流れとなっています。東京電力福島原発事故で放射線の被害に不安が高まる今、核兵器廃絶とともに被爆者援護・連帯を掲げてきた原水爆禁止運動の意義が大きくなっています。



国内外で広がる核兵器廃絶の声

核兵器廃絶をめぐる情勢は、2010年核不拡散条約（NPT）再検討会議の合意の実行、とりわけ「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ための枠組みづくり、核兵器禁止条約などの特別な努力を最大の焦点として動いています。核兵器廃絶を正面から掲げた国際交渉、核兵器禁止条約の交渉開始を求める声は、国連総会でも、非同盟諸国会議などでも大きく広がっています。広島・長崎の被爆から66年、原水爆禁止の運動は核兵器をめぐる世界の流れを大きく変えてきました。

次のNPT再検討会議の準備は2012年に始まり、2014年には核兵器保有国が「自国の核兵器の完全廃絶」も含め、核兵器廃絶の努力の進捗状況を報告することが求められています。

このプロセスを核兵器廃絶達成へと実らせていく上でも、約束実行を迫る国際政治への働きかけと世界的に世論を広げるとりくみがますます重要になっています。



原水爆禁止世界大会が開かれています

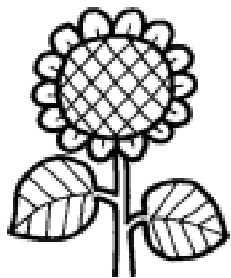
8月3日から9日まで、広島と長崎で2011原水爆禁止世界大会が開かれています。今年の大会には、国連代表をはじめ、非核地帯の政府代表、核保有国の平和運動代表や、世界各国の反核平和運動の代表などが一同に集います。日本全国の草の根の運動代表や、東北など震災と原発被害とたたかう被災地の代表もたくさん参加し、「核兵器のない平和で公正な世界を」をテーマに、討議・交流します。この大会の中で、国連代表に「核兵器全面禁止のアピール」署名(目録)を手渡します。

秋の国連総会に向け署名を集めよう

「核兵器全面禁止のアピール」署名は、秋の国連総会に提出します。あなたの職場、地域、学校で、この署名を集め、秋の国連総会に届けましょう。



安全な原発なんて、ない！



いまこそ“原発ゼロの日本”を

買収されている大手メディア

1970年代、電力業界は、巨額の広告料を払って、大手メディアを次々と買収。まず朝日新聞に大型広告。読売新聞がつづき、毎日新聞は原発に反対する記事をおさえることを約束して広告料を手に入れました。大手新聞社は電力業界に総なめにされ、広告料のひもがつけられ、「安全神話」を振りまく共犯者となったのです。

東電会長は、原発事故当日、マスコミ幹部を引き連れ中国旅行！

勝俣東電会長は、記者会見で「旅費は東電持ちだったのか」と問われ、「マスコミ幹部への旅費は一部東電が出した」と答えました。マスコミへの接待旅行中に事故が起こったのです。しかし、大手マスメディアでこの事実を報道したところは、どこもありません。



平和利用宣伝は、米国の「核持込への地ならし」
50年代半ば、大々的に展開された「原子力の平和利用」キャンペーンの目的が、ビキニ水爆実験で広がった反核・反米世論の沈静化と核兵器の持込を目的としていた事が米解禁文書で明らかとなりました。

なぜ、世界有数の地震・津波国に原発が林立したのか
原発は一基つくるのに5000億円もかかるビックビジネス。誰がその利益を享受するか。電力会社、原発メーカー、大手ゼネコン、鉄鋼・セメントメーカー、大銀行など大企業と、原発推進の政治家、特権官僚、御用学者、メディアなどです。
この利権集団は、異論をすべて排除する「原子力村」＝閉鎖集団を形成しました。これが「安全神話」を製造し、国民をウソで欺き原発を推進、巨額の利益をむさぼってきたのです。

現在の原発の技術は、未完成で危険なもの
いま開発されているどんな形の原子炉も、核エネルギーを取り出す過程で、莫大な核廃棄物を生み出します。いったん核廃棄物がつくられると、人類は、それをコントロールする手段を持っていません。だから、ただ閉じ込めておくしかありません。
しかし、完全に閉じ込めておく方法を、人類はもっていません。「スリーマイル」「チェルノブイリ」「フクシマ」人類は3度も経験しました。核廃棄物の危険がなくなるには、100万年という時間が必要です。これから先、100万年、核廃棄物を閉じ込めておける保障があるでしょうか。一体誰の責任で、それをやるというのでしょうか。
人類のいまの技術では、安全な原発などありえないのです。